（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	諏訪竜一	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・年次指導教員としての役割を果たす。 ・講義分野を学生のみならず、一般公開できるよう取り組むとともに、社会のニーズにも見合う知識を有することのできる講義を行う。 ・研究を通じて、農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。 ・理解しやすくなおかつ深みのある講義を行う。 ・学生の積極的な学会参加を促すとともに農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。	0.00	三年次指導教員として、研修その他指導を行った。 講義を一般公開として提供を行い、幅広い層の受講者に対して理解が深まるよう心がけて講義を行った。研究を行いつつ、沖縄県における様々な食用作物に関連する研究を圃場で行いつつ、同時にこれを食して評価を行い、国としての体をなすための一定量の自給率の確保を目指す事の意義について教育した。 学会参加および学部に対する企業説明会の紹介等を行った。
研究	0.40	・各課題について、十分な成果が得られるよ　う努力する。 ・他組織などと共同で研究を行い、相互のレベルアップに努める。 ・これまでに行った研究に関する論文を投稿し、受理を目指す。	0.00	いくつかのプロジェクトにおいて、積極的に研究を行い、貴重な新たな知見を多く得た。また、いくつかの研究室と共同研究を行い、相互の研究技術と知見の集積を行った。論文投稿を行い、受理された。
社会貢献	0.10	・地域産業の発展に貢献するため関連機関への助言や研究成果の反映を行う	0.00	企業との共同研究を行い、地場生産者の生産物を活用した加工品の研究開発などを行った。また、地域農家の方々と連携して、ダイズおよびエダマメ等新規作物の研究や、夏期における野菜栽培等、現場での指導および研究を共同で行っている。さらに医学部との連携により、地域コミュニティーとともに、がじゃんサイエンスクラブに関与した。
管理運営	0.10	・学科長等の管理職の加重な負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める ・分担している各種委員会の活動を行う。	0.00	センター試験、二次試験その他、各種委員会等、管理運営に関して可能な限り運営の協力をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	谷口　真吾	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	学部講義は、専門用語の意味することの正確な理解とともに、基礎定理・法則を十分に理解させ専門科目の基本知識として十分に定着させることに重点を置く。講義ごとに毎回配布する講義資料を順次改訂し、最新の研究成果等の情報も盛り込みながら内容の充実を図る。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行う。次回講義の冒頭で疑問点などには回答する。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義を行う。目標達成のために、具体的な論文データに対する学生と議論を主体とする演習を随時、講義の中に組み込む。造林学研究室の専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行う。公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習、エントリーシートの作成など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施する。さらに、大学院の進学率を高める指導も行う。	0.40	学部の講義は、専門用語の意味することを正確に理解させるように、できるだけ実際の森林の現場で使う場面での用い方やその意味する基礎定理・法則を反復練習させながら、その意味を十分に理解させることに主眼を置いた。その結果、中間・期末テストでの確認では、専門用語は基本知識として十分に定着していることが評価された。講義ごとに毎回配布する講義資料を順次改訂した。できるだけ最新の研究成果等の情報も盛り込んだ。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行った。その内を次回の講義冒頭で具体的にできるだけ板書を用いて回答した。この取り組みは受講生にはかなり好評であったが、授業の開始から20分から30分間がこの時間に費やすことになり、講義の遅れを助長した。造林学研究室の専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行った。その結果、卒業予定者は2名が大学院進学、1名がJA沖縄に就職を決めた。
研究	0.40	年度内に日本森林学会誌等の中央誌に1編以上の論文投稿、受理・採択を目指す。日本森林学会第131回大会、ならびに植生学会での研究発表を行う。院生には亜熱帯森林研究発表会での発表をさせる。	0.40	日本森林学会誌等の中央誌に主著者として1編以上の論文投稿、受理・採択は年度内には達成できなかった。西表島マングローブに関係する科研費課題の3年間の調査結果は大阪大の特任助教を主著者、私は副著者として論文を執筆させた。この論文は、年度内に関連する中央誌への掲載が決定した。弘前大で開催された植生学会において研究発表を行った。第131回日本森林学会（名古屋大）は新型コロナウイルス感染症のため大会自体が中止になった。しかし、講演要旨には私も口頭発表をエントリーしている。同様に第131回大会に4年次の学部学生3名をポスター発表にエントリーした。講演要旨も受理された。
社会貢献	0.10	地域貢献として、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、とくに沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会い、問題点および解決課題の抽出と解決への提言等を行う。県あるいは国主導の外部専門委員会への招聘や委員任命、参考人としての出席要請は地域貢献の一環と考え、辞退せずに積極的に応じる。	0.10	地域貢献として、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、とくに沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会い、問題点および解決課題の抽出と解決への提言等を行った。県あるいは国主導の外部専門委員会（今年度は7委員会）に出席した。
管理運営	0.10	亜熱帯農林環境科学科の学科長として、学科会議、農学部の各種の委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組み、出席率100%を目指す。	0.10	亜熱帯農林環境科学科の学科長として、学科会議、農学部の各種の委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組んだ。出席率は100%である。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

令和元年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	11.【農林環境】令和元年度教員活動評価シート（井上章二）	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科		職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	令和元年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	令和元年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部においては前学期：森林水文学、森林環境学、外国文献講読Ⅰおよび卒業論文Ⅰなど、後学期：森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムースかつ効果的に実施できるようコーディネータを補佐する。研究室の学生に対しては週1回のゼミを確保し、博士課程および修士課程学生の研究環境を確保するとともに、学部学生を研究室准教授と協力して指導する。	0.50	学部教育では、前学期は森林水文学、卒業論文Ⅰ、後学期は森林土木学、流域・森林保全学、森林測量学、森林工学演習実習、森林測量学実習、卒業論文Ⅱについて、シラバスに則り実施した。しかし、森林環境学、森林科学実習、外国文献講読Ⅰ、Ⅱについては、共同担当者に助けられた。大学院国際農学プログラムでは、ウィンターコースの支援を行った。博士課程学生の指導においては、ジャーナルへの論文投稿は行ったが、掲載には至っていない。卒業論文に関しては週1回以上のゼミを行い、論文発表、論文執筆に導いた。
研究	0.10	海岸林の防災・減災機能に関する研究を引き続き行い、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。一昨年度からスタートしたシロアリ防蟻に関する共同研究を進展させる。	0.10	学会での研究発表はできなかったが、海岸林の防災・減災機能に関する論文は執筆中であり、今年度中の投稿を目指している。シロアリ防蟻に関する共同研究は順調に進展させた。
社会貢献	0.10	昨年４月に就任した日本海岸林学会会長および日本雨水資源化システム学会理事の責務を果たす。琉球大学と九州森林管理局との連携協定の推進を図るとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センターのみならず沖縄県、西原町との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。	0.10	日本海岸林学会会長、日本雨水資源化システム学会理事の責務を果たした。九州森林管理局、沖縄県とも連携にも力を入れた。
管理運営	0.50	学部の円滑な管理・運営に協力するとともに、琉球大学のさらなる発展に向けて尽力する。	0.30	学部の運営等に関して、必要に応じて協力した。
	0.00			
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松本　一穂	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	これまでの授業では板書の書き取りが多く、内容の理解がおぼつかないという意見が多かったため、重要語句のみを書き取ることとし、口頭での補足情報等を踏まえた全体の趣旨が伝わるよう改善する。実験では引き続き内容の集約化を図り、学生自身が体験して学ぶ時間を多く取るようにする。卒業研究ではスケジュール管理や作業内容の確認を定期的に行うことで、進行の遅れや内容の誤りが出ないよう指導する。卒業予定の学生に対しては、希望の進路に応じて就職や進学に関する情報収集を行い、進路の決定を支援する。	0.30	授業では重要語句の部分だけ空欄にした資料を配付することで、受講生が板書を書き取る負担を大幅に軽減した。これにより、口頭による補足情報等を踏まえた全体の趣旨が受講生により伝わるようになった。実験では内容の集約化を図り、学生自身が体験して学ぶ時間を多く取るようにした。卒業研究ではスケジュール管理や作業内容の確認を定期的に行ったが、年度末に時間的余裕が無くなる状況はあまり改善されなかった。卒業予定の学生に対しては、進学先や就職先に関して相談に乗り、卒業研究の進行においても入学試験や就職活動に配慮した。
研究	0.30	沖縄の亜熱帯林やマングローブ林、マレーシアの熱帯雨林における物質循環研究を学内外の研究者と共同して進めるとともに、これまで得られた研究成果について、順次投稿論文としてまとめる。科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募する。	0.30	引き続き、沖縄の亜熱帯林を中心とした研究を推進した。また、今年度から環境研究総合推進費の新規プロジェクト2件の研究分担者となり、新たに熊本県阿蘇地域でも研究を開始した。これまでの研究成果については、今年度3月中に論文1件を国際学術誌に投稿する見込みである。このほか、科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募した。
社会貢献	0.10	沖縄県等の関係機関と連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深め、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場からの問題点の抽出や解決策が立案できるよう、問題意識を持って研究に取り組む。	0.10	沖縄県森林管理課が実施している北部地域における調査に協力したほか、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題に関する理解に努めた。また、金武町の億首川マングローブ保全・活用協議会の委員を務め、マングローブの保全に向けた地域の取り組みを支援した。
管理運営	0.30	全学ではグローバル教育支援機構授業支援部門の併任教員のほか、他1件の委員会委員、農学部では亜熱帯フィールド科学教育研究センターの併任教員のほか、予算委員や進路指導委員、広報委員、その他委員会委員を務め、全学，学部，学科をとおして管理運営に貢献する。	0.30	全学における委員会委員（1件）を務めたほか、農学部では亜熱帯フィールド科学教育研究センターの併任教員や、予算委員、進路指導委員、広報委員、その他委員会委員を務め、全学，学部，学科をとおして管理運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鬼頭　誠	所　属	農学部　亜熱帯農林環境学科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学部担当科目(前期:農耕地の生態、土壌肥料学実験、外国文献講読、卒業論文)、後期(食料生産と環境、熱帯肥培管理論、生態環境科学実験、外国文献講読、卒業論文)を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目(植物生理・生態学特論、特別演習、特別研究)についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても自身の専門から責任を持って担当する。また、学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時などに進路指導上の情報収集に努める。これに関連し、学生の希望に沿ったインターンシップ受入先の獲得に努める。	0.35	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。また、学生の希望進路に沿ったインターンシップ先(農研機構　2名)の手配をし、学会等の出張時などに得た進路指導上の情報を基に助言を行った。
研究	0.35	学部および修士学生と共に研究成果を全国規模の学会での発表する。研究論文を連大基準のジャーナルに1編以上投稿して掲載を目指す。科研費以外にも外部資金として各種財団等の応募型課題による獲得に努力する。さらに、学内外の関連する研究者と共同研究を行い、実社会に応用できる技術の開発に努める。	0.35	科研費の申請課題が採択された他、鹿児島連大の教育研究経費を有効に活用し、修士研究指導学生、学外の研究者と共に第一著者または責任著者として3報の論文が連大基準の学術誌に掲載され、1報が受理された。今年度末までには新たに論文を1報投稿する準備を行った。また、関連学会において登壇者として1題の発表を行った。
社会貢献	0.15	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。過去の研究成果を基に要請があった場合は、学外で講演会やその他専門家としての委員を務める。また、他機関から各種研究評価の依頼も可能な限り受け入れる。	0.15	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、他機関の評価者として申請課題や研究活動等の評価を行った。
管理運営	0.15	全学および学部の各種委員を任命された場合は責務を果たす。その他、鹿児島連大の代議委員、特に教務委員としての責務を果たす。	0.15	全学進路指導委員として責務を果たす。その他、学部の進路指導委員会、研究圃場委員会の委員長として学部運営に協力した。また、鹿児島連大の代議委員(教務委員と入試委員を含む)として責任を持って活動を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	立田　晴記	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	卒業論文，修士論文，博士論文の研究計画策定のサポートを行い，データ取得から解析まで，一通りの技術を身につけられるように指導する．学部および大学院向けの講義を行い，卒業研究を実施するための基礎学力の底上げを図る．また学生がそれぞれ希望の進路に進めるよう，適宜指導と助言を行う．	0.40	卒業論文1名，修士論文2名の作成指導をおこなった．特にデータ解析，実験デザイン，論文作成に至る一連の流れについて適宜アドバイスをおこない，教科書や関連論文を提示して研究の基礎力アップを試みた．大学院講義では統計パッケージRの利用法とプログラミングと統計解析の基礎に関する指導をおこない，研究に生かせる統計学のスキルを身につけられるように心がけた．
研究	0.00	代表科研費（基盤B国内，挑戦的研究），共同研究（科研費基盤研究，環境省委託等）については，今後の目標設定を的確に定めながら研究を進めて行く．また新規研究分野の開拓，競争的資金の獲得に向け一層努力をする．また共同研究を実施中の課題と，これまで結果が積み上げられてきた課題に関連した原著論文を最低2本投稿する．	0.45	科研費（基盤B，挑戦的研究）に関する研究を推進した．また新たに公益財団法人自然保護助成基金が助成しているプロ・ナトゥーラファンドが採択された（2年間）．また原著論文については出版されたものが8編，また本が1冊上梓された．また大型競争的資金に応募し，研究の裾野の開拓を試みた．
社会貢献	0.00	日本動物行動学会英文誌編集責任者，およびポーランド科学アカデミーが発行する学術誌の諮問会議メンバーとしての職務を全うする．	0.05	学会編集者，編集責任者としての業務を全うした．また6月にフランスで開催された国際形態測定学シンポジウム，1月に開催された国際農学プログラム(IAP)でのシンポジウムでchairを務めた．
管理運営	0.00	各種委員会委員，学外からの委託委員の職務を全うする．	0.10	各種委員会委員，学外からの委託委員，大学博物館の職務を全うした．
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	18.【農林環境】令和元年度教員活動評価シート（金城和俊）	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	共通教育科目(琉球の自然と情報科学演習)、学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、農耕地の生態、生態学環境学)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目では情報科学演習、琉球の自然を担当する。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。学生の希望などを踏まえ、進学および就職の支援を行う。	0.20	共通教育科目(琉球の自然、情報科学演習)、学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、農耕地の生態、生態学環境学)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行うことができた。また共通教育担当科目では情報科学演習、琉球の自然を担当する。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。学生の希望などを踏まえ、進学および就職の支援を行う。学生の就職支援として、農研機構種苗管理センター、JA沖縄の業務説明会を開催していただいた。
研究	0.25	2019年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。また、外部資金獲得のために、科研費や財団の研究助成への応募を積極的に行う。民間企業との共同研究を行う。	0.20	2019年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行った。科研の分担および受託研究行った。次年度の沖縄県のリサイクル関連の事業に複数応募するために、複数の企業と計画を立て、申請を行った。投稿論文を1編投稿し、査読中である。
社会貢献	0.25	県や国主催の外部会議に招聘された際に、出席し、その任務を全うする。一般の方や農家に対する講演会や勉強会に積極的に参加し、社会貢献につとめる。小学校などでの課外授業を積極的に行い、地域教育にもつとめる。	0.25	沖縄市経営・生産対策推進会議にて委員として出席した。石垣市立野底小学校にて、「総合学習」の時間に土壌の授業を行った。教員免許状更新講習を行い、約20名の参加者だった。4件の農家から調査依頼、土壌管理の相談、経営相談などの受けた。
管理運営	0.25	農学部の教職担当委員、安全衛生担当委員、FD委員として、職務を全うする。教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。	0.35	農学部の教職担当委員、安全衛生担当委員、地域貢献支援委員として、職務を全うした。教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努めた。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に行った。農学部改修WGとなり、その業務に従事した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	建本　秀樹	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	対話型講義スタイルにより学生の理解力の向上を図ると共に，今年度は学生の学習に対する向上心を刺激するよう講義で使用するプレゼン資料の改善を行う。また，研究室でのゼミでは，学生の研究に対する探究心，ならびに科学英語論文の読解力を鍛え，卒論・修論研究等に生かせるような実践的な教育を研究倫理を踏まえた上で実施する。さらに，研究室に配属されている学生に対しては大学院への進学も含めて進路指導を積極的に行う。一方，1年次生の年次指導教員として他の年次指導教員と協力して，1年次学生の生活・学習・進路指導を確実に行う。	0.30	対話型講義スタイルを取り入れ，常に学生に対して問題を提議しながら進めていく講義スタイルを実施することで，学習意欲の刺激には成果があったと思われるが，学生から活発な質問が少なかったのが非常に残念である。次年度は，その点を改善した授業形式に取り組みたい。一方，研究室のゼミでは，活発な質疑がなされ，同時に，学生達の科学英語読解力も向上した。また，「効果的な就職支援について－就活ルールの廃止も視野に入れて－」のFDに参加し，学生の就職支援について研修を受けた。さらに，研究室に配属されている学生の進路においては，修士を修了した1名が鹿児島大学大学院農学研究科の博士課程に，4年生の3名の内，2名が本学の大学院修士課程にそれぞれ進学し，残り1名が群馬県の養豚業者へ就職し，全員の進路を決めることが出来た。そして，1年次の年次指導教員として，1年次学生の生活・学習・進路指導を確実に行えた。
研究	0.35	昨年度からの継続である科研費の基盤研究(C)の研究課題に取り組む。さらに，平成29年度から開始した沖縄県との「種雄牛造成」に関わる研究課題についても成果のある共同研究を行い，地域に貢献できる研究成果の達成に努める。そして，学術雑誌等への2報以上の研究論文の採択と共に，関連学会での2演題以上の学術発表を目指す。	0.35	国際学術雑誌へ2報の英文による学術論文が掲載され，学会での2演題の学術発表も行った。なお，国内学術誌からの論文査読審査(1報)を依頼され行った。また，昨年度からの継続である科研費の基盤研究(C)の研究，さらには，平成29年度から開始した沖縄県との「種雄牛造成」に関わる研究課題についても積極的に取り組んだ。そして，来年度からの新たな科研費の確保に向けて科研費の基盤研究(C)を申請した。さらに，これまで培ってきた研究技術で地域に貢献すべく養豚業者との研究協力体制も構築でき，ブタ凍結精子による産子作出体制を構築している。
社会貢献	0.15	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し，今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また，関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ，要望があれば出前講座等を実施したい。さらに，「アグー保存会」との連携をさらに深め，純粋系アグーの系統保護に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。なお，昨年度までと同様，今年度も，これまでのアグーに関する研究成果を生かして，県内養豚企業への技術提供を実施する。	0.20	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として参加した。また，沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として，純粋系アグーの維持・管理の指導，ならびにブランド豚の生産に研究協力を行った。その結果，沖縄県内養豚業者に「カスタムメイドよるアグー凍結精子」を利用した技術協力をし，夏季の精子性状が低下し受胎率が低下する時期に冬季に凍結した精子を用い安定した受胎率・分娩頭数を維持する体制を構築した。なお，今年度は，沖縄県内にCSF（アフリカ豚コレラ）が発生し，これまで以上に，種の保存の観点から凍結精子の確保が重視されている。
管理運営	0.15	学部の将来構想委員，さらには全学の危機管理委員等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に，学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして，学科や学部の運営に貢献する。	0.15	昨年度に引き続き今年度も，学科会議，学部教授会および研究科委員会にほぼ100%の割合で出席した。また，入試関係の委員では小論文の問題作成委員長として尽力し，問題なく入試が執り行えたことから責務を大いに果たせたと思う。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金野　俊洋	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	動物の生命活動を理解する上で基礎となる生体機構について、マクロ解剖学から分子生物学に至る幅広い知識を伝え、個体を構成する生物学的な階層性の理解を深めるための教育内容の改善に取り組む。	0.50	過去の受講生の習熟度を踏まえて講義の内容を見直し、基本的な知識の習得により重点を置いたものとした。また、動物解剖生理学実習をより質の高いものにするための環境整備に取り組んだ（小動物飼育棟の改修、本館改修後の顕微鏡室整備のための予算獲得）。
研究	0.30	外部資金獲得に向けた予備データの蓄積と新規研究テーマの開発に取り組むとともに、学内研究資金への応募も積極的に行う。	0.30	外部資金獲得のための基盤となる予備データの蓄積を行った。また、コレスポンディングオーサーの論文1報と共著論文3報が受理された。また、農学部における研究水準向上および全学での機器共用推進に寄与する顕微鏡室整備のための予算を獲得した。
社会貢献	0.10	沖縄県立農業大学校の非常勤講師として家畜解剖学を担当し、県の研究・教育現場との連携体制を構築する。	0.10	沖縄県立農業大学校の非常勤講師として家畜解剖学を担当した。
管理運営	0.10	動物実験委員、琉球大学遺伝子組換え生物等使用実験安全委員などの職務を全うし、大学、学部の管理運営に尽力する。	0.10	動物実験委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全委員などの職務を全うし大学の運営管理に努めた。また、入試委員、広報委員として学部運営に尽力した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	関根　健太郎	所　属	農学部　亜熱帯農林環境科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	植物病理学実験では、実験方法の把握だけでなく、卒業論文研究に適用可能な「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図る。担当講義（植物ウイルス学、熱帯植物病理学、植物病理学特論）では、当該研究分野の社会需要（防疫事業など）を紹介し、学習の明確な目的を持ち、興味と理解を高める。社会的な課題へ農学の貢献する場面について考える機会を提供する。情報科学演習および英語文献講読においては、情報収集能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養うことを強く意識した演習とする。植物病理学研究室の学生に対しては、植物病理学に関する分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促す。1年次指導教員として、将来の進路について、深く考えるよう促す。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行う。社会人との交流を増やすことでコミュニケーション能力を養うサポートをする。またFDの公開授業などに参加して、講義や指導のスキルアップを目指す。	0.40	植物病理学実験では、実験方法の把握だけでなく、卒業論文研究に適用可能な「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図った。沖縄県病害虫防除技術センターと那覇植物防疫事務所の職員が一部の講義に参加し、病害診断の基礎を研修すると共に、大学生に当該実験技術が、社会のどのような場面で必要とされるかを知る機会とした。担当講義（植物ウイルス学、熱帯植物病理学、植物病理学特論）では、当該研究分野の社会需要（防疫事業など）を紹介し、学習の明確な目的を持ち、興味と理解を高めた。中でも、植物ウイルス病学では豚コレラや新型コロナウイルスについての基礎知識を学び、社会的な課題へ農学の貢献する場面について考える機会を提供した。また本年度は、沖縄のマラリア根絶の歴史について講義することで琉球大学の特徴的な講義を提供することを新たに試みた。情報科学演習および英語文献講読においては、情報収集能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養うことを強く意識した演習とした。植物病理学研究室の学生に対しては、植物病理学に関する分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促した。1年次指導教員として、将来の進路について、深く考えるよう促し、卒論発表会に参加する学生も見られた。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行った。特に地域連携に関する特別セミナー、シンポジウム、ワークショップを実施したことで、社会人との交流を増やすことができ、コミュニケーション能力を養うサポートをすることができた。またFDの公開授業や学内のセミナー（時空間ゲノムや熟生研セミナー）に参加して、講義や指導のスキルアップを心がけた。
研究	0.40	地域作物の病害防除を目指した研究の基盤を構築する。関連する研究内容について論文を投稿し受理を目指す。関連学会（植物病理学会、園芸学会）で発表を行う。沖縄科学技術振興センターのイノベーション創出システム構築事業が最終年度であるため、これまでの研究成果をまとめ、官民との連携に基づく研究事業への応募など新たな外部資金の獲得を目指す。	0.40	地域作物の病害防除を目指した研究の基盤を構築した。関連する研究内容について論文を3報投稿した（全て査読中）。関連学会（植物病理学会、園芸学会）で発表を行う予定であったが中止となった。沖縄科学技術振興センターのイノベーション創出システム構築事業「農作物のウイルス病害診断サービス事業の基盤構築」が最終年度であるため、これまでの研究成果をまとめ、官民との連携に基づく研究事業への応募など新たな外部資金の獲得を目指し、農林水産省の競争的資金に2件応募した。また本年度の学内の産学官金スタートアップ支援事業、宇流麻学術研究助成基金に採択され、JSTの研究費A-STEPへ応募するための予備試験を実施した。さらに、沖縄科学技術振興センターのイノベーションシステム構築事業「琉大ブランド「琉大精油」を活用した高付加価値製品の開発および原材料の生産拡大と、環境配慮型病害防除活性のエビデンス取得」（代表者：諏訪竜一）の分担者としてティーツリーオイルがデングウイルスの増殖抑制効果を持つことを示した。この成果を持って、次年度以降のトヨタ財団の研究助成の支援を受けられることになった（代表者：諏訪竜一）。本研究課題は、農学部の作物学・植物病理学・昆虫学研究室、医学部のウイルス学研究室、URAの学内連携による取組みである。さらに官民との連携に基づく研究事業への応募を目指し、JATAFFの事業化可能性調査事業に採択され、新規課題の立ち上げについて検討した。鹿児島連合大学院の先端的研究推進事業支援「島嶼における病原微生物の生態学研究を加速する分子生物学的研究基盤の構築」を受け、鹿児島大学・佐賀大学と連携して、病原微生物における分子生物学的研究の基盤技術を確立した。
社会貢献	0.10	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導、研修会、講演会を通して、技術の普及に努め、地域農業の病害防除に資する。沖縄作物保護ネットワークの構築によって、地域貢献の具体的な成果を発信し、新たな課題解決へ導く。	0.10	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導「公開講座植物病理学実験」・「作物保護検討会」、研修会「那覇植物防疫事務所防疫官研修ゼミナール」「病害虫防除所職員研修」、講演会「沖縄作物保護ネットワークキックオフミーティング」を通して、技術の普及に努め、地域農業の病害防除に貢献した。沖縄作物保護ネットワークの構築によって、地域貢献の具体的な成果「ピーマンの新病害の原因究明と効率的なウイルス検出技術の開発」について発信し、地域連携によって生産現場での病害課題の解決へ導いた。ネットワーク構築の過程で、いくつか地域課題を新たに見出し、地域企業との共同研究を実施するに至った。琉大ブランド商品「琉大ハニー」の開発過程において、地元企業株式会社ローカルランドスケイプ（オキナワカカオ）、デザイン事務所サンシャインデザインと連携して「琉大ハニーグラノーラ」を開発した。COC+地域実践教育推進取組正課外地域実践教育プロジェクト「農業高校と共に学ぶ培養苗生産による地域農業振興」の活動をRCC活動報告会において紹。
管理運営	0.10	予算委員会、研究基盤センター運営委員会（全学）などの大学の運営に尽力する。	0.10	予算委員会、研究基盤センター運営委員会（全学）などの大学の運営に尽力した。学内研究環境整備費で分子間相互作用測定装置BLItzを共用機器として導入した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	嬉野　健次	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	・担当講義について，学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料の作成を工夫する．学生が本実験の意義を理解したかを判断するため毎回小テストを課す．研究室の学生の進路の相談にのる．	0.25	・担当講義（専門科目4科目（うち1科目は分担で5コマ，分担で1コマ担当），共通教育科目（分担2コマ），その他（卒論，演習）について，計画通りの講義を行った．なお、講義では学生の理解度を把握するために、毎回、講義の最後に小テストを実施し，理解が不十分と判断した内容については，次回の講義でも取り上げるようにした.研究室の学生に就職情報を随時提供した．
研究	0.25	・昨年度まで科学研究費で採択された課題について，研究成果を論文に投稿する．	0.25	・科学研究費で昨年まで採択されていた課題「ツツジ亜属種におけるCCD4遺伝子の発現と常緑性黄花ツツジ育種への応用」について，論文（英文）を投稿し，採択，掲載された(筆頭著者)．本年度，科学研究費で採択された課題「四季咲き性キンモウツツジの花芽非休眠性の後代への遺伝とSVP遺伝子との関係」について，園芸学会で研究発表を行った．
社会貢献	0.25	・新聞社，個人などからの植物に関する問い合わせに対応する．また，熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会の外部評価委員，および園芸学会九州支部評議員を務める．	0.25	・熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会，ならびに沖縄県試験研究評価会議（野菜花き部会）の外部評価委員，園芸学会九州支部評議員ならびに同支部会支部賞選考委員を務めた．
管理運営	0.25	・学部内の委員および全学の委員等，与えられた委員の任務を遂行する．	0.25	・本年度担当した学部委員（学生指導主任，代議員，教育委員会委員，進路指導委員会委員，研究圃場運営委員会委員，環境・交通・施設等委員会委員，将来計画委員会委員，研究科代議員等）の任務を遂行した．さらに，全学の委員である学生指導主任，学生生活委員会委員，学生支援・指導専門委員会委員を務めた．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	Md. Mizanur Rahim Khan	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・担当講義について，学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料とパワーポイントの作成を工夫する．研究室の学生の進路の相談にのる。	0.25	学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料とパワーポイントの作成を工夫しました。 研究室の学生の進路の相談にのりました。
研究	0.30	・科学研究費など外部資金の採択を目指す。論文を投稿する。	0.25	外国人研究者支援研究費 をいただきました。 二つ論文をだしました。そのうち一つは雑誌に掲載されました。 もう一つは科学雑誌への受理されています。
社会貢献	0.20	・新聞社，個人などからの植物に関する問い合わせに対応する。	0.25	個人などからの植物に関する問い合わせに対応しました。
管理運営	0.20	・学部内の委員（入学試験委員など）、与えられた委員の任務を遂行する。	0.25	入学試験委員を担当しました。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	川本　康博	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	コース目標である，家畜生産を通じた地域資源循環型農業に関する専門的知識の修得のための教育とそれを支える研究活動を行う。前期：学部担当科目（循環畜産学[6コマ]，家畜環境管理学[7コマ]，熱帯飼料草地学実験，卒業論文I・II），後期：熱帯草地学，草地生産管理学，人口と食糧[2コマ]）を担当すると共に，研究科担当科目（熱帯草地学特論，特別研究I・II，亜熱帯農学特別演習），連合大学院科目（動物資源生産科学特別講義[1コマ]）についてシラバスに沿って講義･実験･演習を行う。インターンシップ（キャリア実習，国際農学プログラム）を海外の大学等との連携プログラムとして作成し，手続き・調整する。	0.30	コース目標に準じた教育研究を実施した。 前期：学部担当科目（循環畜産学[6コマ]，家畜環境管理学[7コマ]，熱帯飼料草地学実験，卒業論文I・II），後期：熱帯草地学，草地生産管理学，人口と食糧[2コマ]）を担当すると共に，研究科担当科目（熱帯草地学特論，特別研究I・II，亜熱帯農学特別演習）についてシラバスに沿って講義･実験･演習を行った。インターンシップ（キャリア実習）をグアム大学応用生命科学部，ボゴール農科大学等と連携して，それぞれ2名を派遣した。なお，連合大学院科目（動物資源生産科学特別講義[1コマ]）については，今年度は実施されなかった。
研究	0.30	沖縄県，国内外の研究機関，大学院学生と共に各研究内容に沿った2～3の研究報文を発表する。外部資金（2事業）を獲得し，関連組織との共同研究を継続・開発し，農学研究，地域農業振興につながる技術の研究開発に努める。	0.30	沖縄県，海外の研究機関，指導学生･海外研究者と共に各研究内容に沿った2研究論文を発表した。外部資金（2受託研究，1奨学寄付金）に対し，各研究内容に沿った調査研究を行った。また，関連組織（タイ国農業普及省）との共同研究を継続・開発し，農学研究，地域農業振興につながる技術や研究開発に努めた。
社会貢献	0.10	県内農家･農業団体一般･高校生等に対し，これまでの研究成果等の普及を推進し，産学連携事業を進めることによって社会貢献を行う。地域農業の六次産業化推進に向けた取組み事業を推進する。また，国際協力機構の研修コース講師，鹿児島大学，名桜大学の非常勤講師を務める。	0.10	県内農家等に対し，日本草地畜産種子協会と連携し，研究成果等の普及を推進し，社会貢献を行った。「農水産業技術支援展」の企画･推進に携わり，実行委員として六次産業化推進に向けた取組みを実施した。また，国際協力機構の研修コース講師（2つの研修プログラム）と，鹿児島大学の非常勤講師を務めた。
管理運営	0.30	附属図書館長としての職責上の業務（管理・運営)を遂行する。併せて，関連会議の委員等を務める。学部では，幾つかの委員会委員を担当する。	0.30	附属図書館長としての職責上の業務（管理・運営・評議員)を遂行した。本学経営協議会員としての職務を担った。
	0.00			
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

□　学外公表に同意しない。　　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	佐野　文子	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	教育：家畜衛生学および微生物学の教育を通じて，食の安全、畜産従事者の健康などについての意識の向上を目標とした教育を行う．学生支援：小学校低学年程度の国語の知識（句読点，段落）を確認，徹底することを第一に，応用として履歴書の書き方，ペン字の基本などの進学・就職活動に必要な基礎をアドバイスする．昨年度に引き続き，社会人の大学院進学を積極的に促すとともに，副指導教員として学会発表，論文投稿の指導を進める．また休学中の院生に対し，論文執筆の指導をメールならびに直接面談による討論を行って進める．	0.30	教育：県内での豚コレラ（豚熱）発生状況もからめて生きた教育をすることができ，感染症への厳しい対応を熟知させることができた．学生支援：昨年同様，基本的なアドバイスを与える以前の問題を持っている学生（日本語の意味を解せない著しく低い国語能力，アルファベットが書けない英語能力）への対応は極めて難しいと痛感した．連大の博士課程学生の指導についてはm副指導教員として論文投稿の指導，学位論文の審査に貢献できた．休学中の社会人学生にはメールのやり取りで論文を完成し，学位申請に必要な論文の2報目が国際雑誌(IF:2.278)に掲載された．追加事項として，学部学生の卒業論文は今回初めて英語で記載されたものが提出されただけでなく，国際雑誌に投稿することもできた．
研究	0.20	家畜衛生学領域を意識した人獣共通感染症、特に水族館飼育下の小型鯨類を宿主とする高度病原性感染症に関する疫学研究，診断法の開発を行い，成果発表を国内外の研究者との共同研究として推進する．	0.30	上記の掲載論文ならびに投稿論文は千葉大学時代から継続しているロンドリーナ大学（ブラジル）との共同研究の成果で，水族館飼育下の小型鯨類を宿主とする高度病原性感染症に関連する論文であった．また診断法の開発としてこちらも上記大学並びに社会貢献と関連した美ら島財団との共同研究により，LAMP法の応用にを試みたところ，迅速診断ならびに検出感度の向上が判明し，過去に遺伝子検出ができなかった検体への応用が可能となり，次年度の学会発表，論文投稿へ十分な準備ができた．
社会貢献	0.15	社会地域貢献：琉球大学包括的協定に基づき美ら島財団研究センターとの共同研究でイルカに関連した人獣共通高度病原性真菌症の研究を進める．また獣医師としての感染症対策などに関する啓発活動および医師、獣医師などからの検体の診断サービスをおこなうにあたり，琉球大学農学部の所属だけであると，真菌の同定や動物の診断を行うと業務外となるため違法診療になる．そのため無報酬兼業として県内の動物病院のスタッフとしての所属を得たうえでの業務とするように状況を改善するとともに，農学部内での診療所開設を目指す．国際貢献：JICAの日系人研修に次年度も引き続き応募する．	0.20	社会地域貢献：琉球大学包括的協定に基づき美ら島財団研究センターとの共同研究でイルカに関連した人獣共通高度病原性真菌症の研究の研究成果として国際雑誌での論文掲載が挙げられる．獣医師による感染症対策の実例として，沖縄県で発生した豚コレラ（豚熱）対策の専門家として，マスコミ対応を行った．無報酬兼業としての診断は行わなかったが，研究ベースでの診断は十分に行うことができた，残念ながら農学部内での診療所開設については全く進展がなかった．国際貢献：JICA日系人研修員を受け入れ，共同研究として十分な成果が挙げられた．数報の国際雑誌に投稿できるデータが集積され，現在メールのやり取りにより投稿準備を進めている．
管理運営	0.35	亜熱帯地域農学科　学科長として学科の運営をスムーズに行うとともに，学部組織への貢献を目指す．また教室運営および大学内の各種役割への積極的に参加し，微力ながらも農学部の発展に寄与できるように努める．学生の安全への配慮を重視する（特に感染性微生物の取り扱い，有機溶媒との接触などは，学生は安全な服装し，見学だけにとどめることを厳守する）．さらに昨年26年ぶりに豚コレラが国内に発生したため，フィールドセンターの衛生管理について獣医師としてアドバイスを行うとともに，教職員学生に注意喚起を引き続き行う．また平成29年10月の環境省の指針により，フィールドセンターでの畜産動物を扱う実習も動物実験とみなされるようになったので，今年度からフィールド実習向けの倫理講習を農林環境学科の金野先生とともに，「食・農・環境概論」の第一回目の講義に組み入れてもらい，動物に対する生命倫理のイニシエーションを入学当初に行うことを目標とする．	0.20	学科長としての職務は皆様の援助協力のもと概ね，遂行できたと言える．学生への安全配慮は十分できたと言える．しかし，残念ながら沖縄県での豚コレラ発生時にフィールドセンターで飼育していた豚の処分について部外者とされたことには，農学部の家畜伝染病予防体制に改善すべき点があると言える．動物実験の倫理講習については今年度は2回目となり，スムーズに進めることができた．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	木島真志	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	授業やセミナーを活用し，学生が大局的な視野に基づく判断能力・思考能力を養えるような環境を整備する．授業評価を踏まえWebclassを有効活用し，受講学生の学習環境を整備する．最新の研究事例などの紹介を通して森林資源管理経営の重要性・面白さを伝える．留学希望者の支援及び，留学生の支援を積極的に行う．研究室の学部生・大学院生に対して，進学・就職などの進路についてアドバイスを積極的に行う．	0.40	これまで東南アジア諸国において、定期的に開催しているワークショップ等で得た経験を，学内の授業に反映させることで学部担当科目の内容がより充実したものになった。研究室教授と協力し、５名の研究室の卒論指導を行った。また、国際農学プログラムウィンターコースで講演した。
研究	0.40	科研費の研究代表および分担者として参加している（参加した）調査研究と国内外における他大学・他研究機関と進行中の共同研究（統計数理研究所・宇都宮大学等）を遂行し，その成果発表を国内外での学会にて積極的に行い，学会誌へ投稿する．新たな外部資金獲得(科研費)のための申請書を準備し応募する．所属学会の編集委員として,学会誌の発行に積極的に貢献する．	0.40	分担している科研（基盤A:17H00806）における共同研究をほぼ計画どおり遂行できた。また研究成果の一部を国際誌(1本)に受理され、発表した。また、2本の論文を国際誌に投稿中である。
社会貢献	0.10	学外の審議会等（県内:2）へ参加し，積極的に情報交換を行う．国内外の研究会の運営に積極的に関わる．統計数理研究所の研究者らと東南アジア諸国で実施している統計ワークショップの運営に積極的に関わる．	0.10	目標どおり学外の会議に委員として参加し、積極的に議論を行った。 また、統計数理研究所の研究者らと東南アジア諸国で実施している統計ワークショップの運営に積極的に関わる。
管理運営	0.10	農学部代議会委員（7号），FD委員(3号)，図書運営委員，エコアクション21ユニット実施責任者としての責務を果たす．さらに，教職担当教員として，教員免許獲得を目指す学生を積極的にサポートする．	0.10	目標どおり責務を果たせたと考えている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	杉村　泰彦	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	3.50	今年度は連大博士課程学生1名以上が修了見込みであり、これが達成されるよう副指導教員としての業務に取り組みたい。また、修士課程についても1名が修了予定であり、これが計画通りとなるよう取り組みたい。 学部学生については、研究室所属6名が卒業論文に取り組むため、より良い学びとなるように指導したい。 講義と演習については、アクティブラーニング要素を加えつつ、質の向上を図りたい。	4.00	予定されていた連大博士課程学生の学位取得については達成され、副指導教員として応分の役割を果たした。また、修士課程1名、学部生6名についても満足できる水準の修論、卒論を作成し、それぞれ修了、卒業が決定した。教員としてよい学びを提供できたと考えている。講義、演習においても、学外での農業水利施設調査を実施するなどアクティブラーニングの要素を加えつつ、質の向上に取り組んだ。しかし、この結果、業務ウェイト比は当初予定よりも上昇した。
研究	3.50	研究代表者である科研費が2/3年目となることから、夏季または冬季に欧州での実態調査を実施するとともに、論文投稿または学会報告で成果の一部を発表する。分担者の科研費2題目は本年度が最終年であることから、それぞれの代表者と協力して、論文等によって研究成果を発表したい。	3.00	今年度は日本農業市場学会より学会誌賞が授与された。予定していた欧州調査は秋季に実施し相応の成果につながる見込みであるが、冬季の調査は社会情勢により先送りせざるを得なくなった。3月には本年度の成果を学会で発表する予定である。
社会貢献	1.00	沖縄総合事務局、沖縄県における委員会委員は可能な限り継続および就任し、地域の国立大学としての役割を果たせるよう努めたい。併せて、中央畜産会（軽種馬）等の委員についても継続し、研究成果の還元に努めたい。	1.00	沖縄総合事務局、沖縄県の委員会員は継続した上で、自治体の委員等も引き受けることとなった。また、中央畜産会の委員は退任することとなったが、代わりに日本軽種馬協会の担い手研修委員として、沖縄県内に止まらず役割を果たした。
管理運営	2.00	教育委員会、広報委員会などすでに就任が決まっている委員会委員については、大学および学部の発展という観点から業務に取り組みたい。 全学学士教育プログラム委員会など継続が見込まれる全学委員会についても同様の観点から役割を果たしたい。	2.00	広報委員会では委員長としてオープンキャンパスを実施した。全学では学士教育プログラム委員会委員を継続し、グローバル教育機構教育支援部門の教員を兼任することとなった。学部内では、農学部教育委員、改修WGをなどを継続している。
	0.00		0.00	
計	10.00		10.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大田　伊久雄	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	農林経営経済学の総括担当教員として、オムニバス授業の特長を生かしつつ教員間の連携を重視した授業を行う。森林政策学の授業においては、ミニテストやレポート、学生によるプレゼンテーション等を採り入れて出来るだけインタラクティブな授業をするよう工夫をする。比較林政学の授業においては、アクティブラーニングの手法を採り入れ多様な評価軸を用いた授業構成を試す。森林政策学実習では、学生のレベルとニーズに適合した野外実習メニューとデータ分析方法を採り入れる。研究室のゼミでは、他の教員と協力しながら、学生の自主性を尊重しつつ卒業論文に向けて着実に学力を身につけられるような指導を行う。	0.40	農林経営経済学では、4名の教員における評価の基準を明確化し、担当授業を終えるごとに次の授業の冒頭30分で試験を行うなどの改革を行った。その結果、学生の出席率も良く、授業への取り組み姿勢にも向上がみられた。森林政策学では、ミニテスト・プレゼンテーション・レポート・中間試験・期末試験と評価軸を多様化した結果、自主的な学習意欲を強く感じられる学生が多かった。比較林政学では、プレゼンテーションとディスカッションを重視した授業を試み良い手応えが感じられた。卒業論文では、学生の自主性を重視した結果、多岐にわたる新奇で面白い研究内容のものが多くみられた。
研究	0.40	学会活動では、9月にブラジルで開催されるIUFRO（国際森林研究機関連合）の世界大会に参加して口頭報告を行う。また、11月の林業経済学会及び3月の日本森林学会に参加する。学会誌への投稿論文に関しては、FSC森林認証木材製品の販売実験に関する論文を執筆して海外の学術誌に投稿する。科学研究費補助金等の公募に申請し外部資金の獲得に努める。	0.35	9月にブラジルで開催されたIUFRO（国際森林研究機関連合）の世界大会に参加し、森林認証製品の販売実験に関する口頭報告を行った。また、国内では7月の西日本林業研究会（鳥取県日南町）、11月の林業経済学会秋季大会（東京農工大学）に参加した。3月の日本森林学会（名古屋大学）では沖縄県の木造建築の現状に関する口頭報告を行う。科学研究費補助金に関しては、基盤（A）に応募した。
社会貢献	0.05	林業経済学会評議員ならびに学会誌編集委員会委員として学会運営に貢献する。現在担当している地方公共団体の委員会委員等の役職を引き続き務め、さらに要請があれば参加の範囲を拡大する。	0.10	林業経済学会評議員ならびに学会誌編集委員会委員として学会運営に貢献した。また、愛媛県西条市の「地下水法システム研究会」委員として条例制定に向けた会議に複数回参加した。さらに、今年度から九州森林管理局の「地域管理経営計画に係る有識者懇談会委員」として会合に出席した。
管理運営	0.10	本年度から鹿児島大学大学院連合農学研究科の代議委員を務める。さらに、農林経済学分野長、農学部予算委員会委員、農学部自己評価委員会委員、農学部教育委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者、亜熱帯フィールド科学教育研究センター運営委員、人事調書作成委員会委員等の役割を滞りなく行う。	0.15	鹿児島大学大学院連合農学研究科の代議委員として連大運営に積極的に参加した。さらに、農林経済学分野長、農学部予算委員会委員、農学部自己評価委員会委員、農学部教育委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者、亜熱帯フィールド科学教育研究センター運営委員、人事調書作成委員会委員としての職責を果たした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	高嶋　敦史	所　属	農学部　亜熱帯フィールド科学教育研究センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	教育活動では，実習や講義の内容の更新・充実に努める。特に，教授の退職に伴い前年度までと実施体制が変わる「基礎フィールド実習」「フィールド実習Ⅲ」「亜熱帯林体験実習」は，周到な準備を行って実施する。 学生支援活動では，今年度より研究室を一人で運営することになるため，配属されている学生の指導や就職サポートに注力する。また，年次指導の1年生には，学習・生活面で適切なアドバイスを行う。	0.25	教育活動において，実施体制が変わった「基礎フィールド実習」「フィールド実習Ⅲ」「亜熱帯林体験実習」では従来のプログラムを踏襲したが，個人で実施する講義や実習では新しい知見や近年のトピックを盛り込むなどしてアップデートを図った。 学生支援活動では，研究室配属学生とコミュニケーションをとることを意識し，就職に関するアドバイスなどを行った。1年次生の年次指導教員としては，年次懇談会の準備・進行を務め，1・3研修にも参加した。
研究	0.30	環境研究総合推進費のプロジェクトにおいて，奄美・琉球の亜熱帯性二次林や広葉樹人工林の生態学的機能評価，リュウキュウマツ人工林の自然再生に関する研究などに取り組む。すでにデータを取得済みである成熟林における樹洞形成に関する研究については，成果を英文誌に投稿する。屋久島のヤクスギ林に関する研究では，モニタリングの継続と調査地の維持管理に努める。	0.30	奄美・琉球を対象とした研究では，環境研究総合推進費のプロジェクト等で大学院生らとともに亜熱帯性二次林や広葉樹人工林に関する研究を深め，論文等が地方誌に4本受理された。一方で，成熟林における樹洞形成に関する研究は，データの取りまとめ等に時間を要したため論文投稿に至らなかった。 屋久島のヤクスギ林に関する研究では，調査地のモニタリングと維持管理を継続し，科研費申請を行った。
社会貢献	0.10	林野庁補助事業や沖縄県の審議会など，委員の委嘱を受けた業務について積極的に取り組む。与那フィールドにおいて開催される公開講座や各種研修等をサポートする。さらには，国立公園の管理運営にあたりながら世界自然遺産登録を目指す地域の活動に協力する。	0.10	個人として委員の委嘱を受けた業務には，可能な限り出席して積極的に発言した。与那フィールドで予定していた公開講座は申し込みが少なかったため中止となったが，高校生の研修受け入れは1件から2件に増加した。世界自然遺産候補地地域連絡会議沖縄島北部部会では，行動計画や観光マスタープランの構築にむけ意見やアイデアを提供した。
管理運営	0.30	与那フィールドの森林管理や施設運営に取り組む。与那フィールドの教育研究利用を促進するとともに，利用者の許認可手続き等を支援する。	0.35	与那フィールドの森林管理や施設運営にあたり，計画的に技術系職員への業務指示を行った。利用者に対しては，安全かつ円滑に利用してもらえるよう事前の調整や連絡に取り組んだ。国立公園地域の利用については，定期的に環境省に確認を取りながら進めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	波平知之	所　属	農学部　亜熱帯フィールド科学教育研究センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	①基礎フィールド実習（分担）、フィールド実習Ⅱ（分担）、畜産周辺関係学、外国語文献講読Ⅱ、卒業論文Ⅱ（分担）で基礎的・専門的知識や技術習得に向けた実習・講義内容の充実を図る。 ②グローバルサイエンスキャンパスの高校生1名を学会発表までの研究指導を行う。 ③授業態度、レポート提出、定期試験等から成績をつける。 ④教育支援での資質向上を図り、講義やゼミ等でキャリア支援を実践する。	0.40	①基礎フィールド実習（分担）、フィールド実習Ⅱ、外国語文献講読Ⅱ、卒業論文Ⅱ（分担）で内容の充実を図った。前期に情報科学演習（1コマ）、後期に動植物人間関係学を担当した（3コマ分担）。②ゼミの高校生の研究指導を行い、学会発表させた。③学生の習熟度を考慮しながら講義内容や講義方法の改善（テキスト配布、ワークシート等）を適宜行い、授業態度、レポートおよび定期試験等から成績をつけた。
研究	0.20	①島嶼地域の肉用牛飼養管理に関する実用的研究課題（子牛生産、繁殖牛飼養、草地管理等）に取り組む。 ②フィールド科学の動物共生科学の課題研究の発掘を行う。 ③科研等の競争的外部資金の募集に積極的に応募する。 ④論文1報以上を投稿し、大学院の副指導資格を取得する。⑤研究基盤センターとフィールド畜産グループで共同プロジェクトを実施し、技術職員研究発表会に職員を派遣する。	0.19	①暖地型牧草の栽培試験、牛のラテラリティー調査、肉豚の放牧試験、牛の放牧試験を継続実施した。②肉用山羊の新規研究の実施（共同研究）した。③科研に応募、学内の研究整備費採択（分担）、国の研究センターと新規プロジェクトに応募した。④学会・研究会発表5題、論文執筆中。⑤試料分析を行い、技術職員を研究会などに派遣した。
社会貢献	0.20	①沖縄畜産研究会の役員として活動・研究会の開催に取り組む。 ②フィールドセンター主催の学外向けイベント等に取り組む。 ③施設見学の受け入れ、共進会参加、農業者の担い手育成等に積極的に参加する。 ④農業大学校の非常勤講師、沖縄畜産振興公社の非常勤畜産コンサルの業務を兼任する。	0.21	①沖縄畜産研究会の役員として活動・研究会の開催に取り組んだ。②農場祭りを開催した。③小学生の職場体験、外部からの施設見学、農業改良普及員の技術研修を実施した。④農業大学校講師（8コマ）、畜産コンサル業務(石垣4件、宮古2件）に従事した。
管理運営	0.20	①フィールドセンターの畜産グループおよび広域グループの管理運営等に関する業務を遂行する。　②フィールドセンターと学科の運営に参加する。 ③予算委員、学術報告編集委員として学部の運営に参加する。 ④動物実験委員会の委員として学内の運営に参加する。	0.20	①子牛販売、牧草販売、試験圃場の管理、堆肥施設の運用に取り組み、歳入目標を達成した。②亜熱帯フィールド科学教育研究センターや学科の運営に参加した。③予算委員、学術報告委員として学部の運営に参加した。④動物実験委員会の委員として学内の運営に参加した。
			0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	内藤　重之	所　属	農学部　亜熱帯地域農学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部担当科目については必要に応じて資料を配布するとともに、ビデオ視聴や現地視察等を取り入れて理解しやすい講義を行う。授業終了時に学生から質問と感想を提出してもらい授業の改善に努める。大学院担当科目については意見交換を行い受講生の問題関心に沿った授業を行う。また、食料・農産物流通や6次産業化等に関する研究成果を授業に反映させる。 研究室の学生や担当科目の受講生等に対して進路（進学・就職）についてのアドバイスを積極的に行う。今年度も「キャリアディベロップメント」の世話人を務めることから、学生の進路に関する情報収集などの支援をしっかりと行っていきたい。	0.30	学部担当科目については必要に応じて資料を配付するとともに、ビデオ視聴や沖縄県中央卸売市場、農協の視察を取り入れるなど、理解しやすい授業になるよう努めた。大学院担当科目についても現地視察を取り入れたり、学生の問題関心に合わせてシラバスの内容を変更したりするなどの対応を行った。また、学部・大学院の担当授業とも研究成果を授業に反映させることができた。さらに、博士課程の学生の博士号取得に貢献するとともに、進路指導などの学生支援も行えたことから、目標を十分に達成できたと考えている。
研究	0.30	科研費の研究代表課題および研究分担課題2課題の調査研究を遂行し、その成果をとりまとめて学会の個別報告を行うとともに、論文を投稿する。また、科研費の研究代表課題が今年度で終了することから、科研費の申請を行い、外部資金の獲得に努める。さらに、日本農業市場学会、食農資源経済学会、沖縄農業経済学会の理事、農業理論研究会の事務局としての役割をそれぞれ果たす。	0.30	研究代表者を務める科研費の研究課題については学会の個別報告を行うとともに、学会に論文を投稿し、受理された。また、大学院生らとの共著論文2報が学会誌に掲載された。さらに、科研費の申請を行い、外部資金の獲得に努めた。学会や研究会についても理事等としての役割を果たすことことができたことから、当初の目標を達成できたと考えている。
社会貢献	0.10	消費・安全対策交付金に係る事業の第三者評価会委員をはじめとする国関係の委員、沖縄県経営構造対策推進協議会委員など沖縄県関係の委員、糸満市六次産業化・地産地消推進戦略協議会委員など市町村関係の委員等として、それぞれ役割を果たす。	0.15	沖縄振興審議会農林水産業振興部会の部会長、沖縄県中央卸売市場運営協議会の委員長など当初の想定よりも多くの委員を務め、当初の目標以上に各委員会や審議会等の委員としての役割を果たすことができたと考えている。
管理運営	0.30	農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター長、副学部長として運営に注力するとともに、農学部の代議会、自己評価委員会、人事委員会、中期目標・中期計画推進会議委員会、教育研究戦略会議等の委員として、それぞれ責務を果たす。	0.25	農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センターの管理運営に力を入れ、副学部長としても職責を果たすことができたと考えている。また、授業等で出席できない場合を除き、開催された委員会にはすべて出席し、委員としての責務を果たすことができたと考えている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	和田　浩二	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学部の担当科目（食品分析学、食品科学、健康栄養科学実習、セミナーⅠ・Ⅱ等）では、基礎的な内容とともに、関連する研究成果も含めた実践的な授業を行う。なお、食品科学では講義の後半でアクティブラーニングを取り入れる。大学院担当科目（食品分析学特論）を開講する場合は、プレゼンテーション技術の指導を取り入れる。また大学院生TAの有効活用を図る。食品関連の資格（食品衛生監視員及び食品衛生管理者任用資格、健康食品管理士受験資格）の取得や現状について学生に講義やセミナーを通して指導する。	0.35	学部担当科目はシラバスに沿った授業を行うとともに、食品分析学および食品科学の講義の中では、沖縄特産品に関する研究成果を紹介し、より専門的な観点から講義を行った。なお、食品科学の「食品の分類」では、グループごとの発表と討論を行うアクティブラーニングを取り入れた。実験と実習では地域の特産品である泡盛を実験材料のひとつとして用いた。また、食品分析学の初回に食品関連の資格の概要について説明を行った。大学院は受講者がいなかった。セミナーでは課題を与え、作成したスライドによるプレゼンテーションを実施した。さらに修士課程大学院生2名をセミナーと卒業論文のTAとして、教育補助に活用した。
研究	0.25	研究室所属の大学院学生および学外共同研究者と共に研究論文の採択を目指す。学会発表ならびに関連学会の運営に協力する。県内外の試験研究機関と受託研究（外部資金）を行い、実社会にも応用できる技術の開発に努める。	0.25	博士・修士課程学生、技術職員および学外の共同研究者との研究成果が英文誌に3報、国内誌に2報が採択された。国内学会で2件の発表を行った。また外部資金等としては国と沖縄県の試験研究機関との受託研究（3件）で食品関連を中心に研究を実施した。
社会貢献	0.10	専門分野における学外委員会に参画する。これまでの共同研究の成果を講演会やセミナーなどで公表し、社会貢献を行う。	0.10	学外委員として、日本食品安全協会理事会、日本食品保蔵科学会理事会等に参画した。産業支援としては、2019年度西日本食品産業創造展（マリンメッセ福岡）の機能性セミナーに招待され、講演を行った。
管理運営	0.30	全学的な各種委員会（企画経営戦略会議、全学人事委員会、評議会など）、学部では教授会、代議会、人事委員会、研究科委員会などに出席し、それぞれの組織の管理運営に関わる。	0.30	全学的な各種委員会（企画経営戦略会議、全学人事委員会、評議会など）、学部では教授会、代議会、人事委員会、研究科委員会などに出席し、それぞれの組織と学部の管理運営に取り組んだ。また、農学部改修に関わるワーキングや工程会議にも参加し、改修の計画立案等にも参画した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	髙良　健作	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	専門科目の「食品機能化学」と「食品安全化学」ではグループ発表による主体的学習を積極的に加える．「亜熱帯生物資源科学科実験」「食品機能科学実験」「食品衛生学実験」でもグループ単位で実験材料を選んで主体的学習を常に意識した授業に努める．「卒業論文」および「セミナー」はこれまでの研究活動を十分に活かすと同時に学生の個別能力に応じた指導を行う．	0.40	それぞれの授業は概ね目標通りに遂行できた．指導学生の中で合理的配慮が必要とされる学生がいたため障がい学生支援室との調整を行い，無事に科目履修を行うことが出来た．また就職支援として説明会の調整や情報提供を行った．
研究	0.40	4年目となる農水省の委託プロジェクト，沖縄県の科学技術イノベーション事業の各研究成果について論文投稿を行う．また県内外の企業との共同研究を今年度も継続して実施する．	0.30	農水省委託プロジェクトや県外企業との共同研究2件について，概ね目標としていた研究課題を遂行できた．
社会貢献	0.10	日本食品保蔵科学会や日本農芸化学会西日本支部・中四国支部合同大会の実行委員会への参画，沖縄県産業振興基金事業「産学官連携推進NW事業」の審査委員，健康食品管理士会沖縄支部の副支部長など役職を果たす．さらに生涯教育としてジャパンハーブソサエティーでの勉強会講師を務める．	0.10	支部合同大会の実行委員（会計業務）を分担し，産学官連携推進ネットワーク事業で審査委員長を，沖縄県工業技術センター個別評価会議で委員を，健康食品管理士会沖縄支部の役員（副支部長），沖縄県委託事業子（供科学技術人材育成事業）サイエンス・リーダー育成講座講師，沖縄県保健医療部主催食品安全安心講習会講師，さとうきび利用加工研究会事務局を務め，社会貢献活動を行った
管理運営	0.15	全学学士教育プログラム委員，農学部各種委員（教育委員会，進路指導委員），およびハラスメント防止対策委員の職を務める．	0.20	年度目標で上げた学内委員の他に教員採用に係る委員会等において積極的に任務を果たした．また全学ハラスメント防止対策委員会ではハラスメント調査委員長を務めた
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	玉城　一	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部教育では栄養生理学、栄養生化学、生物資源とサイエンス、亜熱帯生物資源科学実験、食品機能科学実験を、大学院修士課程では栄養生化学特論、鹿児島連大の応用生命科学基礎特論を担当する。またセミナーや卒業論文作成に関する教育を行う。	0.30	学部教育では栄養生理学、栄養生化学、生物資源とサイエンス、亜熱帯生物資源科学実験、食品機能科学実験を、大学院修士課程では栄養生化学特論、鹿児島連大の応用生命科学基礎特論を担当した。またセミナーや卒業論文作成に関する教育を行った。加えて健康栄養コースの栄養学実験を担当した。
研究	0.30	学生に対して研究指導を行い、学会発表、学術論文の書き方を指導する。また企業や地域の市町村との共同研究を行う。	0.15	学生に対して研究指導を行い、学会発表、学術論文の書き方を指導した。企業や地域の市町村との共同研究は行えなかった。
社会貢献	0.20	研究を通し、地域の発展に協力する。	0.20	共同研究は行わなかった。令和2年度に向け、県内の団体と共同研究の準備を進めている。また目標には書いていないが、沖縄県沖縄県食品の安全安心懇話会の座長を務めた。
管理運営	0.20	各種委員会活動に積極的に参加し、大学管理運営に寄与すべく努力する。	0.20	入試業務、各種業務を通じ、大学運営に寄与すべく努力した。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.85	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	福田　雅一	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	学部担当科目として分子生物学、遺伝子工学、生物工学、亜熱帯生物資源科学実験Ⅰ、生物機能開発学実験Ⅰ、Ⅱ、卒業論文Ⅰ、Ⅱ、生物機能開発学セミナーⅠ、Ⅱ、共通教育の生物資源利用とサイエンス等を担当する。大学院担当科目としては、修士課程の遺伝子工学特論、亜熱帯農学特別演習Ⅰ等を担当する。学部4年次指導教員として学生支援に努めていく。卒業予定学生が単位不足などで卒業できないということがないよう単位確認について指導行う。研究室の学部4年生の進学・就職もなるべく希望通りになるよう支援・指導していく。	0.45	学部担当科目として分子生物学、遺伝子工学、生物工学、亜熱帯生物資源科学実験Ⅰ、生物機能開発学実験Ⅰ、Ⅱ、卒業論文Ⅰ、Ⅱ、生物機能開発学セミナーⅠ、Ⅱ、共通教育の生物資源利用とサイエンス等を、大学院担当科目としては、修士課程の遺伝子工学特論、亜熱帯農学特別演習Ⅰ等を担当した。学部4年次指導教員として、推薦状の作成など学生支援に努めた。2月に卒論発表を行った研究室の学部4年次学生については、公務員浪人する予定の1名の学生を除いては、ほぼ希望通りの進路に進むことができた。うつ状態で登校できず卒業が延期になった学生については引き続き支援を行っていく。
研究	0.35	大学院学生の博士号取得に向けた論文指導、および学部学生の卒論指導を行い、卒業に十分な成果を出せるようにする。さらに、農芸化学会等において学会発表できるような研究成果も目指す。また、過去の研究成果を論文として出版できるようにする。	0.35	鹿児島連合大学院農学研究科より1名の学生が、連合大学院の基準に達した研究業績を学術論文として発表し、学位論文に対して農学博士の学位が授与された。また、農芸化学会西日本・中四国支部合同大会において学会発表も行った。
社会貢献	0.10	毎年行われるオープンキャンパスや体験アグリサイエンスなどに積極的に取り組み、高校生への研究紹介や実習の指導を行う。	0.10	オープンキャンパスや体験アグリサイエンスなどに積極的に取り組み、高校生への研究紹介や実習の指導を行った。
管理運営	0.10	遺伝子組み換え生物等使用実験学部安全主任者、研究基盤センターRI（放射性同位体）使用安全委員会など全学、学部、学科、分野内の活動に参加していく。	0.00	遺伝子組み換え生物等使用実験学部安全主任者、研究基盤センターRI安全委員会など全学、学部、学科、分野内の活動に参加した。また学外の審議会として、沖縄工業高等専門学校遺伝子組換え生物等使用実験安全委員も担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.90	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小西　照子	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部及び大学院では植物や糖化学に関する基礎から応用までを取り入れた内容の講義を実施し、地域社会で活躍できる人材育成に取り組む。特に学部4年生1名、大学院生1名の卒業または修士論文作成の指導や進路の助言を行う。また、農学部の教員免許取得する学生に対しては授業実践演習の授業を通じて、教員を志望する学生の資質向上に取り組む。	0.30	学部の講義（植物分子生理学、糖鎖生命科学、亜熱帯生物資源科学演習）および大学院の講義（生物資源化学特論）の講義を実施した。また、学部卒業生1名および大学院生修士修了者1名を輩出し、学部卒業生は大学院へ進学また修士修了生は沖縄県で就職することになり、地域社会で活躍できる人材育成に取り組んだ。そのほか教員養成においても学生の対応を行うなど、教員を志望する学生の資質向上に取り組んだ。
研究	0.20	科研費など外部資金の獲得を目指す。また、沖縄県の地域課題解決対する研究を学際的に取り組み、成果を学会で発表または学術論文として発表する。さらに、成果から有用なものがあれば、積極的に特許の申請を行う。	0.10	科研費を獲得し、沖縄県が抱える問題であるオキナワモズク養殖における課題を解決すべく研究を行った。また、成果を学会で発表した（日本農芸化学会西日本支部会、藻類学会）。
社会貢献	0.10	県内外の民間企業との共同研究を通じ、地域の活性化に役立つ研究を行う。また、研究関連のほか、教育関連の事業を通してイベントを実施するなど地域貢献を行う。	0.30	県外の民間企業と共同研究を行った。またリケジョプログラムの一環として県内各地の高校での出前講義や、体験実験などの各種イベントを企画・実施し、地域貢献を行った。
管理運営	0.40	学長補佐として大学運営に積極的にかかわる。学部内では国際農学プログラムの委員として、また教育委員会委員として大学業務に取り組む。	0.30	広報・周年事業担当学長補佐として、大学運営に積極的に関わった。また、学部内では国際農学プログラムの運営メンバーとして、IAPウィンタープログラムの企画・実施に携わった。さらに、学部内では教育委員および入試委員の委員会業務に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	外山　博英	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	前期、学部 3年生に「発酵化学」と「外国文献講読」の講義と、3年生に「発酵・生命科学実験」（分担）を行う。「生物資源利用とバイオサイエンス」を分担する。後期、学部 1年生に「生物化学」、大学院生に「応用生物化学特論」を行う。学部 3年生に「泡盛醸造学」と「泡盛醸造学実験」を分担する。修士論文、卒業論文のための研究指導を行う。4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行う。	0.25	前期、学部 3年生に「発酵化学」と「外国文献講読」の講義と、3年生に「発酵・生命科学実験」（分担）を行なった。「生物資源利用とバイオサイエンス」を分担した。後期、学部 1年生に「生物化学」、大学院生に「応用生物化学特論」を行なった。学部 3年生に「泡盛醸造学」と「泡盛醸造学実験」を分担した。修士論文、卒業論文のための研究指導を行なった。4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行なった。
研究	0.35	酢酸菌研究会の会長として研究会の運営に関わる。本年度日本-フィンランド二国間共同研究のシンポジウムがフィンランドで開催されるので、参加発表を行う。ビタミンB研究協議会で口頭発表する。日本生物工学会大会（岡山）、日本農芸化学会本大会（福岡）において発表する。学術論文を2報以上投稿する。泡盛に関する共同研究を推進する。	0.35	酢酸菌研究会の会長として研究会の運営に関わった。本年度日本-フィンランド二国間共同研究のシンポジウムがフィンランドで開催される予定であったが、開催されなかった。ビタミンB研究協議会で口頭発表した。日本生物工学会大会（岡山）で発表した。日本農芸化学会本大会（福岡）は中止となった。学術論文を2報投稿し、採択された。泡盛に関する共同研究を実施した。
社会貢献	0.30	沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行う。泡盛マイスター認証に関わる認証審査委員を務める。日本農芸化学会西日本支部・中四国支部合同大会の実行委員長を務める。日本生物工学会九州支部長を務め、2021年に開催される全国大会の準備を行う。学術雑誌の論文審査を行う。日本農芸化学会西日本支部の評議員を務める。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務める。琉球料理及び琉球泡盛のユネスコ無形文化遺産登録委員会委員として活動する。琉球大学ブランドの「泡盛第2弾を発売する。	0.30	沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行なった。泡盛マイスター認証に関わる認証審査委員を務めた。日本農芸化学会西日本支部・中四国支部合同大会の実行委員長を務めた。日本生物工学会九州支部長を務め、2021年に開催される全国大会の準備を行なった。学術雑誌の論文審査を行なった。日本農芸化学会西日本支部の評議員を務めた。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務めた。琉球料理及び琉球泡盛のユネスコ無形文化遺産登録委員会委員として活動した。琉球大学ブランド事業には採択されなかったので、来年度以降に向け準備をした。
管理運営	0.10	国際交流委員会、広報委員会の各委員を務める。	0.10	国際交流委員会、広報委員会の各委員を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平良　東紀	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学部科目（講義2科目，実習3科目，演習2科目），および大学院科目（講義1科目，演習2科目）を担当する。特に，学部の講義の予習・復習のために，講義のスライドをe-learningのweb siteで学生が見られるようにする。講義に対する学生の意見を収集するために「ワークシート」を持ちいる。	0.20	生命科学の講義では，Web class（e-learningシステム）上に講義のスライドをいつでも学生が見られるようにすると同時に，講義のより効率的な理解を進めるために，ワークシートを用いた。専門性の高いタンパク質工学の講義でも，同様にWebclassおよびワークシートを用いるとともに，本分野の最新の解析手法を学ぶためにPCプログラムを用いた実習も行った。
研究	0.40	学部および大学院学生と共に研究を行い，専門分野での学会発表を積極的に行い，研究論文の採択を目指す。他研究機関との共同研究を行い，高いレベルの研究論文の採択を目指す。抗カビ酵素の産業化，泡盛蒸留粕の有効利用，乳酸菌の応用に関する研究で外部資金の獲得を目指す。	0.40	博士・修士・学部学生および他研究機関との共同研究の成果を学会で8件発表した。これらの成果の一部を国際誌に投稿し，採択された（Int. J. Biol. Macromol. IF=4.78）。日本生物工学会大会トピックス賞（603演題中3件）を受賞した。指導した博士課程の学生が，日本農芸化学会西日本支部奨励賞を受賞した。「沖縄産素材を用いた高齢者向け栄養補助食品素材の研究開発」に関する研究で企業と共同で公募研究に応募・採択され外部資金を獲得し，成果を得た。
社会貢献	0.20	高等学校における出前講義等を行う。高等学校の科学部の指導を行い，自然科学の普及に努める。国税極主催の泡盛鑑評会の委員として，地域産業の1つである泡盛醸造における製造技術の向上に貢献する。南方資源利用技術研究会の庶務幹事として，会の運営を行う。	0.20	中谷医工計測技術振興財団の科学教育振興助成による昭和薬科大学附属高校の化学部の研究の指導・アドバイスを行った。南方資源利用技術研究会の庶務幹事として，総会・特別講演会および沖縄農業研究会との合同研究発表会を開催した。沖縄で開催された日本農芸化学会西日本・中四国支部合同大会にて実行委員総務係として運営を行った。
管理運営	0.20	全学の研究推進会議・研究企画員，広報戦略本部の委員，琉球大学社会連携に関する自己点検・評価委員として大学運営に貢献する。学部の将来計画委員会，自己評価委員会の委員として学部運営に貢献する。	0.20	全学の研究推進会議・研究企画員，広報戦略本部の委員，琉球大学社会連携に関する自己点検・評価委員としてとして会議に参加・発言し大学運営に貢献した。学部の将来計画委員会，自己評価委員会，教育委員会の委員として会議に参加して学部運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	上地　敬子	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	1年次指導教員として，学生の教育や生活等の支援に努める。学部教育では生物資源とサイエンス，亜熱帯生物資源科学実験Ⅲ，発酵生命科学実験，泡盛醸造学実験，亜熱帯農学特論，卒業論文，セミナー等を分担で担当する。鹿児島連大の補助教員として学生の博士論文の作成の補助を行う。学生の進学・就職の相談に対して情報提供やアドバイスを行う。	0.40	1年次指導教員として，学生の教育や生活等の支援に努めた。学部教育では生物資源とサイエンス，亜熱帯生物資源科学実験Ⅲ，発酵生命科学実験，泡盛醸造学実験，亜熱帯農学特論，卒業論文，セミナー等を分担で担当する。鹿児島連大の補助教員として学生の博士論文の作成の補助を行った。学生の進学・就職の相談に対して情報提供やアドバイスを行った。
研究	0.40	卒業研究の指導を行い、専門分野での学会発表を行うとともに、研究論文の採択を目指す。また，学外の研究者との共同研究を進展させる。科研費に加えて、民間財団等が公募する競争的研究資金の獲得を目指す。また，現在までに得られている研究成果について特許申請する。	0.40	卒業研究の指導を行い、専門分野での学会発表を行い，企業賞を受賞した。学外の研究者との共同研究により学会発表ができるまでの成果が得られた。民間財団等が公募する競争的研究資金の獲得を目指したが，今年度は獲得できなかったので次年度の獲得を目指したい。
社会貢献	0.10	地域貢献支援委員として地域のイベント等に積極的に参加する。琉球藍意見交換会など，沖縄の伝統工芸の原料確保事業に関連する会議等に参加する。	0.10	琉球藍意見交換会など，沖縄の伝統工芸の原料確保事業に関連する会議等に参加する。大学が主催するリケジョ実験体験会に参加した。
管理運営	0.10	地域貢献支援委員会の委員として、学部の運営に積極的に参加する。	0.10	地域貢献支援委員会の委員として、学部の運営に積極的に参加した。入試関連の係を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	森山　克子	所　属	農学部　亜熱帯生物資源科学科健康栄養科学コ	職　名	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞに基づいた授業内容とする ・栄養士の現場（保育園、学校等）と関わる取り組みを行う。 ・「栄養教諭論」「栄養教育実習」を学校現場と調整し実施する。 ・「校外実習」の学外4給食現場選定と調整を行う。 ・担当学年の学生に対しては、個別指導を行う。 ・毎回の授業で学生により授業の振り返りを書面で行う。（習得度をつかみ、学習支援をする）	0.30	・ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞに基づいた授業内容とした。其の上で今年度は、授業のまとめとして最終回にプレゼン発表でその成果を確認した。 ・現場の栄養士と現場（保育園、学校等）と関わる取り組みを行った。（校外実習、食育実践） ・「栄養教諭論」「栄養教育実習」を学校現場と5回調整し期間中も指導し協力して実施した。 ・「校外実習」の学外4給食現場選定と各々2回調整を行い、実習中は訪問指導を行った。 ・担当学年の学生に対しては、前期、後期各々一回づづ個人面談で個別指導を行った。 ・毎回の授業で学生により授業の振り返りを書面で行う。（習得度をつかみ、学習支援をする）
研究	0.30	・沖縄の家庭料理の調査・研究（日本調理科学学会協同研究） ・附属小学校との連携による共同研究 ・給食を活用した食育推進の研究	0.30	・沖縄の家庭料理の調査・研究（日本調理科学学会協同研究）を農文協で出版した。 ・新調理場建設のため本学給食施設における衛生管理について附属小学校と研究した。 ・給食を活用した指導案、指導資料、現場栄養士の研究を行った。
社会貢献	0.20	・沖縄県スポーツ審議会副委員長 ・沖縄県食品の安全安心懇話会委員 ・宜野湾市食育推進会議議長 ・公益法人沖縄県学校給食会評議員 ・大学公開講座 ・栄養教諭、学校栄養職員の初任者研修会講師 ・栄養教諭10年経験者講習認定講師　・ ・栄養教諭認定講習講師 ・栄養教諭免許更新講習講師	0.25	・沖縄県スポーツ審議会副委員長　・沖縄食育協会理事 ・沖縄県食品の安全安心懇話会委員 ・宜野湾市食育推進会議議長 ・県立普天間高校、那覇国際高校、那覇市首里中学校、うるま市具志川小学校、豊見城市上田子ども園、沖縄県民宿組合、沖縄市支援センター等食育講演、クッキングを行う。 ・那覇市学校給食審議会委員 ・大学公開講座　・南部広域圏支援事業（教育学部）で不登校児童に対する食育支援 ・栄養教諭、学校栄養職員の初任者研修会講師 ・栄養教諭10年経験者講習認定講師 ・栄養教諭免許更新講習講師
管理運営	0.20	・教育学部教育実習委員会栄養教諭部会 ・教育実習、栄養教諭部会長として支援と指導を行う ・南部広域行政組合教育委員会（琉球大学教育学部連携協定事業委員	0.15	・代議員 ・教育学部教育実習委員会栄養教諭部会 ・教育実習、栄養教諭部会長として支援と指導を行う ・南部広域行政組合教育委員会（琉球大学教育学部連携協定事業委員
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平良　英三	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	学部担当科目で農業環境計測工学，生物資源プロセス工学，生物材料工学を行うとともに，関連する実験や演習を担当する。学生の理解度に合わせた解説を行い、基礎知識・技術の習得ができるように努める。学部学生，修士学生が卒業研究で必要な実験や学習を指導する。	0.25	共通科目「情報科学演習」，学部専門科目「農業環境計測工学」等，大学院科目「食品工学特論」等を担当し，シラバスに沿って授業を行った。2年次指導教員として、進路や学習達成に関する指導を行った。また，卒業研究や修士学生、博士課程学生の研究指導を行った。
研究	0.25	これまでの研究成果について、国内外で研究発表を行う。また、海外研究者との交流をはかり、質の高い研究の推進に努める。研究成果を論文等にまとめ，成果の公開と研究発展に努める。	0.25	近赤外分光法を主とする計測技術の研究を行い、3編の論文が国際学術雑誌に受理された。また、1件の国内学会論文賞、1件の国際学会ポスター賞を受賞した。また、近赤外分光法に関するセミナー開催や国際WSへの参加など、研究分野の発展に努めるとともに海外研究者との交流を図った。
社会貢献	0.20	県内企業，試験研究機関等と連携し，共同研究を積極的に行う。特にサトウキビの価格取引に関して，沖縄県と鹿児島県の製糖関係者と連携し，品質評価システムを運用する。また，沖縄県や農業団体と協力し，沖縄産果樹のブランド化に関する研究を推進し，産地強化のための情報を提供する。	0.20	製糖工場で運用されるサトウキビ品質評価システムの維持業務を行うとともに、その管理に関する情報提供を行った。また、省力化のための機械システム開発に関する共同研究を実施した。JAと協力し、これまで開発した非破壊センサーについて説明し、今後の活用を検討した。
管理運営	0.30	学科長として学部内の運営を行うとともに，各種委員会活動を通じて大学の管理運営に関する責務を果たす。	0.30	学科長として学部・学科の運営に関する活動を行うとともに、図書運営委員、国際教育専門委員、JICA連絡協議会委員として全学の委員会活動にも努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鹿内　健志	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	・学部担当科目（農業情報工学，農業電気電子工学概論，農業生産システム論等），大学院講義（農学研究の方法）を担当し，ICTを活用し，予習・復習を効果的に進める授業を実施する。 ・1年次指導教員として修学および進路指導・相談を行う。 ・FDの企画へ参加する。	0.35	・学部担当科目（農業情報工学，農業電気電子工学概論，農業生産システム論等），大学院講義（農学研究の方法）を担当し，Webclassを活用し，予習・復習を効果的に与えることができた。 ・1年次指導教員として修学指導・相談を行った。 ・農学部教授会実施のFDやグローバル教育支援機構が実施した企画へ参加した。
研究	0.00	・科学研究費による学外研究者との共同研究を進め，その研究成果を学会・論文等で発表する。 ・学会（農業食料工学会，農作業学会，情報処理学会等）の委員として種々の活動に取り組む。	0.25	・科学研究費による学外研究者との共同研究を進めた。成果の一部は「農作業研究」に論文発表した。 ・学会（農業食料工学会，農作業学会，情報処理学会等）の委員としてイベント実施や論文査読等に協力した。
社会貢献	0.00	・高大接続を進め，教育改革，入試改革を行う。 ・沖縄県農業研究センター等と連携し，地域農業支援の取り組みに参加する。	0.10	・高大接続を進め，アドミッション部門の高大接続改革推進ワーキング会議（8月27日）に参加し，2021年度入試での面接や調査書の取り扱いについて高校教員と意見交換した。また，宮古高校での出前講座「未来の農業を考えよう」（12月18日）を実施した。 ・沖縄県農林水産部 南部農業改良普及センターと共同で，沖縄県本島地域での小規模経営を対象としたサトウキビ栽培機械化体系の再構築に関する研究を実施した。
管理運営	0.00	・グローバル教育支援機構において大学教育改善の改善や教育の質保証について検討を進める。 ・農学部の委員会活動等に積極的に参加する。	0.30	・グローバル教育支援機構大学教育支援部門において共通教育運営および大学教育改善について取り組んだ。 ・農学部の委員会活動に積極的に参加し，入試委員長として農学部入試改革を進行している。
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	酒井　一人	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	前期（応用数学、地域環境基礎演習I、水文気象学、外国後文献、数学・力学演習）、後期(水資源工学、水利環境学)を担当する。 学生の進路、特に進学に関する進路指導を行う。	0.40	前期（応用数学、地域環境基礎演習I、水文気象学、外国後文献、数学・力学演習）、後期(水資源工学、水利環境学)を担当した。 4年次に数人の退学者が出るなど、4年次指導教員としては十分な支援ができたとは言えない。 指導する修士学生については、複数回の学会発表のサポートなどを実施することができた。
研究	0.30	査読付き雑誌への投稿を行う。科学研究費に関する研究(代表：2年目、分担：1年目)を実施する。	0.30	コレスポンディングオーサーとして以下の3報の論文が受理された。 ・Classification of groundwater suitability for irrigation in Ulagalla tank cascade landscape by GIS and the analytic hierarchy process ・Sensitivity Analysis of Plant- and Cultivar-Specific Parameters of APSIM-Sugar Model: Variation between Climates and Management Conditions ・A Functional Analysis of Pedotransfer Functions Developed for Sri Lankan soils: Applicability for Process-Based Crop Models 科研に関する研究について、予定通り遂行できた。
社会貢献	0.10	沖縄県および総合事務局の委員会においての責務を果たす。	0.10	沖縄県および総合事務局の委員会委員としての責務を果たすことができた。
管理運営	0.10	副学部長(農学部本館改修のまとめ役)としての責務を果たす。	0.20	農学部本館改修の開始に伴う各方面との調整、第3期工事に向けての準備などの業務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲村渠　将	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	(1)新規に主担当となる測量関連授業(「測量学」、「測量学実習」、「応用測量学I」)の教材作成 (2)学部授業科目「水理学」における少人数クラス制の導入（1組と2組に分割） (3)学部授業科目「卒業論文I・II」の学生指導に割く時間の確保 (4)大学院授業科目「水利環境学特論」における現地授業の場所の変更 (5)学科関連の就職支援資料の収集および公開、企業説明会などの実施 (6)農学部附属施設の兼務教員として「フィールド実習II」を担当し、草地測量の授業の実施 (7)農業水利施設の撮影	0.60	(1)「測量学」及び「測量学実習」の教材を仕上げた。受講生のいない「応用測量学I」の教材を作成せずに、「測量学」の教材作成に注力した。「測量学」の教材は発展途上であり、次年度も引き続き改善を進める。 (2)1組と2組を開講した。少人数制にすることにより、実験室に実験を交えた講義を展開することができた。次年度の建物改修期間中にこのような開講を実施することができないことは残念であり、次年度前学期中に代替案を考え出さなければならない。 (3)前学期の「卒業論文I」では学生の授業の都合上メールによる学生指導を確保した。後学期の「卒業論文II」では、授業担当や委員会作業の過密さの都合上年末まで主にメールによる学生指導とならざるを得ず、1月以降に対面的な学生指導を確保することができた。次年度以降も同様になることが予想されるが、とくに後学期における授業担当や委員会作業の過密さが卒論の学生指導を圧迫している状況を危惧している。(4)従来の南部地域に加え、中部地域の北谷浄水場、長浜ダム、金ダムおよび金ダム周辺の水田地域を新たに追加した。受講した留学生から実際的に役立つ授業だとういうコメントが寄せられ、今後もより良い現地授業に向けて改善を進めていく。(5)学科の進路指導掲示板に企業パンフレットや求人票などの就職支援資料を掲示した。業務説明会（日本国土開発、沖縄リビック）を開催した。年次指導教員を担当している3年次にその都度就職支援情報をメール配信した。「キャリア実習」のため、企業及び公務員（国・県・市町村）へのインターンシップの手続きをサポートした。(6)農学部附属施設の兼務教員として「フィールド実習II」を担当し、草地測量の授業を計画通り実施した。(7)学会活動の帰路を活用して、筑後川中流の朝倉地域に足を運び、堀川用水を見物し、この用水を構成する山田堰や三連水車などの農業水利施設を撮影し、後学期の「水利環境学」の教材に追加して紹介した。また、豪雨被害から回復しつつあるこの地域の農業を堀川用水が支えていることを目の当たりにし、農業土木はやはり我が国の基礎だということを再認識した。 (8)（年度末追加事項）合理的配慮学生への対応を考え、提案し、実行した。
研究	0.01	(1)学会大会への参加 (2)日本雨水資源化システム学会委員会の任務への取組み（一式） (3)農業農村工学会九州沖縄支部代表幹事および支部賞選考委員会の任務への取組み（一式） (4)農業農村工学会応用水理研究部会代表幹事の任務への取組み（一式） (5)科研費・助成金への応募	0.01	(1)農業農村工学会九州沖縄支部大会、日本雨水資源化システム学会研究発表会に参加した。(2)日本雨水資源化システム学会委員会の任務に取り組み会議での審議を行った。(3)農業農村工学会九州沖縄支部代表幹事の任務に取り組み会議での審議を行った。(4)農業農村工学会応用水理研究部会代表幹事の任務に取り組み会議での審議を行った。分担して一部を執筆した農業農村工学標準用語事典が刊行された。(5)科研費が採択された。3カ年間の全額を交付してもらい、実験装置を完成させた。
社会貢献	0.01	(1)沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会の任務への取組み（一式） (2)農業農村工学分野における産官の人材確保の課題解決への取組み（一式）	0.01	(1)沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会の任務を平成30年度で終えたため、今年度の任務はなかった。しかし夏頃に県庁担当職員と対談し、2期6年間の経験に基づき、今後の事業に活かしてほしい思いを述べた。 (2)農業農村工学会沖縄支部大会に合わせて開催された九州沖縄地域大学・行政連絡会議に出席し、本学科地域環境工学コースの過去の就職動向及び今後の予想を情報提供するとともに、農業農村工学分野で最近懸念されている人材不足について九州農政局、九州各県および民間企業の代表者らと意見交換し、各組織の人材不足が深刻であり、農業農村整備の取組みや技術継承への影響が浮き彫りにされた。学生に対するこの分野への就職支援を引き続き進めていかなければならない。
管理運営	0.38	(1)農学部予算委員会への参画（一式）、(2)農学部進路指導委員会への参画（一式）、(3)農学部地域貢献支援委員会への参画（一式）、(4)エコアクション21ユニット行動計画担当（一式）、(5)農学部附属施設の兼務教員として運営委員会への参画（一式）、(6)3年次指導教員（一式）、(7)入試の試験監督（一式）、(8)全学学士教育プログラム委員会への参画（一式）	0.38	(1)農学部予算委員会の任務に取り組み、学科内の調整を含め、今年度予算を成立させた。(2)農学部進路指導委員会の任務に取り組み、業務説明会の行い方などを確認した。また、業務説明会（日本国土開発、沖縄リビック）の世話役を務めた。(3)農学部地域貢献支援委員会の任務に取り組み、70周年記念誌の記事を執筆し、フィールドセンターの催し物への経費支援を審議して決定し、教員が自己負担で取り組んでいる地域貢献活動への支援策を検討（継続検討中）した。(4)エコアクション21ユニット行動計画担当としての任務はなかった。(5)農学部附属施設の兼務教員及び運営委員会の任務に取り組み、授業1コマ、会議での審議を行った。(6)3年次指導教員の任務に取り組み、履修登録確認、学科の進路指導掲示板に企業パンフレットや求人票などの就職支援資料の掲示、業務説明会（日本国土開発、沖縄リビック）の開催、就職支援情報のメール配信、「キャリア実習」のため企業及び公務員（国・県・市町村）へのインターンシップの手続きサポート、1・3研修会、「地域農業工学演習II」の研究室配属のマネジメント、コース分属・卒論配属に関する申合わせ事項の提案などその他を行った。(7)私費外国人留学生入学試験委員を務めた。日韓共同理工系学部留学生の受け入れを検討し考えを述べた。大学院入試二次の面接試験と合否判定を行った。(8)農学部教育委員会および学士教育プログラム委員の任務に取り組み、全学・本学部の専門基礎科目の実際を検討、キャリア関係科目の検討、参照基準への対応、3つのポリシーの見直し修正作業、修学支援制度の検討、学生便覧の編集、最初の一歩の編集及びその他を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	瀬戸内　秀規	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	授業科目として、農村基盤施設学、材料・コンクリート工学、応用力学、工学の力学、施設工学、土質力学、卒業論文をURGCCならびにJABEEの教育目標に沿った水準、内容で提供する。修士課程においては、地盤工学特論、土質改善学特論、亜熱帯農学特論、農学研究の最前線を提供する。年次指導教員として学生の生活状況確認および卒業生の就職の斡旋を行う.	**0.35**	農村基盤施設学、材料・コンクリート工学、応用力学、工学の力学、施設工学、土質力学、卒業論文の授業科目について、定期試験の実施・添削により受講生の学習達成度を確認するとともに、URGCC目標水準の授業を展開した。また、授業のプレゼン、資料などの充実、エビデンスの作成などに努めた。 1年次指導教員として、研修等において指導を行った。
研究	0.30	土砂災害に伴う地形変状を巨視的に予測し得る力学地形モデルの構築のための研究を進展させる. 科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けて取り組む.	**0.30**	土砂災害に伴う地形変状を巨視的に予測し得る力学地形モデルの構築のための研究を進展させた。科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けて取り組んだ。
社会貢献	0.10	研究成果の学術雑誌への投稿および学会発表を進めることにより社会貢献に努める。依頼があれば、雑誌のレフリー、エディターも行う。オープンキャンパスに向けた研究室の紹介等の準備および対応に取り組む。	**0.10**	1編の学術論文が機関誌に掲載され、研究活動の社会へ公表に努めた。 大学オープンキャンパス、卒業論文ポスターセッションに関する準備公開を行った。
管理運営	0.25	委員会委員とし、本学および本学部の管理運営に努める。	**0.25**	全学情報システム技術専門委員会、国際交流委員会（委員長）、学部代議会、島嶼防災研究センターの委員として運営を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中村 真也	所属	農学部　地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	シラバスレビューを参考に修正したシラバスに沿い，JABEEの基準を満たす授業を行う。研究成果や具体例を授業に活用して学生の理解と意欲の向上を図り，亜熱帯地域特有の関連事象も教授する。学生に求める読書量及び作文量を増やし，読解力，作文力及び考察力の向上を図り，試験においてそれらの評価を行う。クォータ化した授業ではシャトルカードにより学生の意見を積極的に聴取する。FDセミナーに参加する。1年次指導教員およびキャリア実習世話役を務める。学生サークル「おきなわ食・農研究会」を支援する。	0.35	JABEE教育プログラムの授業を担当・分担し，シラバスに沿って授業を行った。農村・農地環境概論では、農業基盤整備現場における現地授業、グループワーク、ピアインストラクションおよびワークショップを取り入れ、初年次学生の専門分野への導入において学習効果を高める工夫を行った。土地環境保全学では熱帯・亜熱帯地域の関連事象を教授し、研究成果を取り入れた。複数の授業において、学生の読書量及び記述量が増えるようなレポートを課した。試験においては、考える力を試す問題を増やした。授業科目のクォーター化により、学生の学習効果を高める試みを実施した。学生サークル「おきなわ食・農研究会」の顧問として各種活動を支援した。
研究	0.45	研究成果について，査読付学術誌への論文投稿，発表通じて公表する。学長リーダーシップ研究プロジェクトをPIとして推進する。このプロジェクトを基に外部資金の獲得を試みる。日本地すべり学会の「すべり面及び移動体の物質科学・構造研究委員会」の代表を務める。民間企業との共同研究を遂行する。研究成果に基づく知財の社会実装を試みる。	0.40	学長リーダーシップ研究プロジェクトを特命助教とともに実施し、その成果が査読付学会誌に掲載された。査読付学術誌に主著論文を1編投稿した。国内外の学会にて研究発表を行った。日本地すべり学会すべり面及び移動体の物質科学・構造研究委員会の代表を務めた。民間企業との共同研究を遂行した。（公社）日本地すべり学会の全国大会（熊本）の事務局長を務めた。（公社）農業農村工学会農地保全研究部会の第40回大会（石垣市）の事務局長を務めた。研究成果特許の実施料を得て研究費の一助とした。
社会貢献	0.10	行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果に基づく学術・技術コンサルティングを行う。沖縄総合事務局，沖縄県，公的機関等の委員会や研究会に参画する。糸満市土地改良事務所ほかと連携した教育活動（出前授業、講演会）を通じてよりよい地域づくりを支援する。沖縄土木技術者交流会及び沖縄土壌浄化研究会の勉強会を開催し，沖縄県内関係技術者の技術力向上を支援する。（公社）日本地すべり学会の理事及び九州支部事務局長，農業農村工学会農地保全部会幹事等を務める。	0.05	糸満市立真壁小学校および米須小学校において出前授業の講師を務めた。行政・企業の求めに応じ技術コンサルティング・サポートを行った。沖縄総合事務局の農業農村整備事業等補助事業事後評価技術検討会委員長、沖縄県公共事業評価監視委員会委員、沖縄県公共工事入札契約適正化委員会委員、農水省・農業農村工学会農業用ダム安全性評価委員会委員、第5次沖縄市国土利用計画審議会委員等を務めた。（公社）日本地すべり学会の理事及び九州支部事務局長を務めた。沖縄斜面調査研究会技術顧問、沖縄土木技術者交流会副会長を務め、後者の勉強会を開催した。
管理運営	0.10	琉球大学教育研究評議員および農学部副学部長を務める。全学および学部の各種委員を務める。入試関連業務について割当分を担当する。	0.20	評議員を務めた。グローバル教育支援機構会議、懲戒委員会、利益相反マネジメント委員会、大規模改修推進ワーキング等の全学委員や副学部長を務めた。また、農学部教育委員会、将来計画委員会、農学部教育研究戦略会議、自己評価委員会、FD委員会等の委員長を務めた。入試関連業務について割当分を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	木村 匠	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	担当授業について，授業評価アンケート結果や昨年度のシラバスレビューのコメントを参考に修正したシラバスに沿った授業展開を心がけ，JABEEの基準を満たす授業を行う。授業では，基礎的事項に加えて，研究例の紹介を行い，学生の理解度と修学意欲の向上に繋がるよう努める。また，学生の情報収集能力，適切な情報の活用力，記述力等の向上を目的とした課題や試験の実施に努める。FDセミナーに参加する。年次指導教員として，3年次学生の修学支援と進路指導を行う。	0.30	JABEE教育プログラムの授業を担当および分担し，シラバスに沿って授業を行った。土の物理学では研究例の紹介も行い，グループワークによる授業内活動や読解と記述を基本とした課題を課した。授業のクォーター科目化による授業内容の定着効果向上を図った。合理的配慮に関するセミナー，大学の成り立ちを考えるFD・SD研修，就職支援に関する研修を受講した。2019年度の公開授業に参加し，授業の改善のための情報収集を行った。定期的な年次懇談会や臨時の懇談会を開催し，3年次学生の修学状況の把握と進路指導を行った。
研究	0.45	研究成果について査読付学術雑誌への論文投稿や学会発表を行う。継続の科研費（代表）と採択された財団の研究費（代表）に関する研究課題を遂行する。（公社）日本地すべり学会の代議員および全国大会（熊本）の実行委員会幹事を務める。外部資金の申請を行う。研究基盤の整備と学内外の共同研究ネットワークの構築に取り組む。	0.40	科研費（代表）と財団研究費（代表）の研究課題を遂行し，実験，現地調査および情報収集を中心に研究活動を行った。研究成果について，主著と共著の計4編の論文が査読付学術誌に掲載された。また，主著論文を1編投稿した（査読付学術誌）。2019年米国地質学会で学会発表を行った。（公社）日本地すべり学会の代議員および九州支部の幹事（副事務局長）を務めた。2019年度日本地すべり学会熊本大会実行委員会の幹事および事務局員として，全国大会の主催に携わった。2020年度の（公社）農業農村工学会鹿児島大会のプログラム編成小委員を努めた。（公社）農業農村工学会農地保全研究部会の事務局として，第40回大会（石垣市）を主催した。学内外の分担者と共に外部資金（財団）の申請を代表者として行った。研究基盤センターの講習会における講師を招へいした。国立研究開発法人産業技術総合研究所の客員研究員として責務を果たした。
社会貢献	0.10	（公社）日本地すべり学会のすべり面に関する委員会に参画して各種調査を行う。（公社）日本地すべり学会の九州支部幹事としての務めや沖縄土木技術者交流会の勉強会の参加を通じて，沖縄県内外の斜面災害関連技術者の技術向上のための基盤作りや支援に貢献するよう努める。	0.20	（公社）日本地すべり学会のすべり面に関する委員会の集会に参加した。（公社）日本地すべり学会九州支部の幹事と連携して，九州・沖縄地域の斜面災害対策技術について意見交換を行った。2019年度の日本地すべり学会熊本大会では，県民講演会を主催して斜面防災に関する活動の社会への普及を支援した。（公社）農業農村工学会農地保全研究部会大会（石垣市）では，地域の農地保全に関する行政・農家・研究各位の意見交換場の提供を支援した。糸満市立真壁小学校の出前授業に参加した。
管理運営	0.10	全学および学部の各種委員を務める。入試関連業務について割当分を担当する。	0.10	農学部の広報委員，学術報告編集委員，農学部改修WG委員を務めた。入試関連業務について割当の担当を務めた。安全保障輸出管理，面接試験，情報セキュリティに関する講習を受講した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	安元　純	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学科科目として、測量学実習（分担）、応用測量学Ⅰ、応用測量学Ⅱ、地域環境実験I（分担）、製図（分担）、卒業論文I，IIを担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、共通教育「琉球の自然」（分担）、教職科目の、情報科学演習9組、10組（分担）を担当する。農学研究科では「亜熱帯農学特別演習Ⅰ」と修士1年の副指導を担当する。	0.30	学科科目として、測量学実習（分担）、応用測量学Ⅰ、応用測量学Ⅱ、地域環境実験I（分担）、製図（分担）、卒業論文I，IIを担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、共通教育「琉球の自然」（分担）、教職科目の、情報科学演習9組、10組（分担）を担当した。農学研究科では「亜熱帯農学特別演習Ⅰ」と修士1年の副指導を担当し，「農学研究科　亜熱帯農学特論（分担）」を担当した。
研究	0.50	関連分野の学会講演会等（日本地下水学会，農業農村工学会，国際学会等）で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を1報程度投稿する。今年度は科研費基盤（C）（代表），基盤（B）（分担），基盤（B）（分担），萌芽（分担），環境省研究総合推進費（サブテーマ代表），地球研IS研究（サブリーダー），JST科学技術コミュニュケーション推進事業（コアメンバー）を遂行する。さらに、関連の研究助成に共同研究者と共に応募する。	0.50	関連分野の学会講演会等で国際学会発表9件，国内学会発表9件を行うとともに、国際誌に研究論文が1報掲載され，他に2報投稿中である。今年度は科研費基盤（C）（代表），基盤（B）（分担），基盤（B）（分担），萌芽（分担），環境省研究総合推進費（サブテーマ代表），地球研IS研究（サブリーダー），JST科学技術コミュニュケーション推進事業（コアメンバー）を遂行した。さらに、JSTSDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラムに研究代表者として八重瀬町共同申請し採択された。次年度地球研FS研究に採択された。
社会貢献	0.10	オープンキャンパスにおいて、研究室を公開する。JST事業のアクションリサーチや環境省事業でアウトリーチ活動によって、研究成果を地域社会に還元するための取り組みを積極的に行う。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行うことで社会貢献に努める。また、所属学会の委員や研究委員会等を通じて、学外学会活動に貢献する。	0.10	オープンキャンパスにおいて、研究室を公開した。JST事業のアクションリサーチや環境省事業でアウトリーチ活動によって、研究成果を地域社会に還元するための取り組みを積極的に行った。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行うことで社会貢献に努めた。また、所属学会の委員や研究委員会等を通じて、学外学会活動に貢献した。
管理運営	0.10	学部及び学科の委員を務める。	0.10	学部委員としてフィールド科学教育研究センター運営委員などを務め，農学部の管理運営に積極的に関わった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。